

令和元年度宮城県ストップ温暖化大賞

一般社団法人日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノ

(敬称略)

地球温暖化最前線国キリバス共和国をテーマとした地球温暖化防止啓発活動

- 地球温暖化の影響により水没の危機にある「キリバス共和国」で起きている被害について、『愛の反対は憎しみや恨みではなく、無知と無関心』をキーワードに、その現場の生の声として伝える講演活動を多数実施。地球温暖化対策の必要性についての啓発に大きく貢献している。
- 宮城県内外の自治体の事業として学校やイベント等で実施したものを含め、講演の開催は163回、受講者は累計約1.5万人に及ぶ。(2019年8月現在)

受賞者略歴

1977年宮城県仙台市生まれ。

1993年にキリバス共和国に単身で高校留学し、高校卒業後も引き続き同国に在住。

2000年に日本国籍者として初めてキリバス共和国に帰化。会社経営をしながら、キリバス政府関連の様々な役職を歴任したほか、2003年から2011年まで、地球温暖化問題で世界的に脚光を浴びるアノテ・トン大統領(当時)の私設政策補佐官も務めた。

2011年から仙台在住。

2017年に一般社団法人日本キリバス協会を設立。キリバスでの実例を題材にした地球温暖化・気候変動に関する講演活動を、日本各地や世界各国で行っている。

前・在日本キリバス共和国名誉領事・大使顧問。



キリバス共和国

赤道と東経180度線が交わる辺り、太平洋のど真ん中にあるキリバス共和国は、西から首都タラワがあるギルバート諸島、世界遺産に登録されているフェニックス諸島、世界で一番最初に朝日を迎えるライン諸島からなる、33の美しい島々が東西5000キロの広大な海域に散らばる国です。1979年にイギリスから独立し、日本とも非常に深い関係があります。サンゴの環礁でできており、海拔は平均で2メートル程度しかありません(バナバ島を除く)。自然と調和しながら生き、穏やかで歌と踊りが大好きな約11万人(2015年現在)がふるさとと呼ぶ、まさに南洋の楽園の島々ですが、気候変動によって最悪の場合、2050年には人が住めなくなる可能性があるとして世界銀行などの国際機関が予測している、気候変動の最前線国です。(一般社団法人日本キリバス協会パンフレットより抜粋)



南国の美しい風景が広がるが、南タラワの幅は平均でわずか350メートル。海面上昇により木の根元や住居の土台がえぐり取られてしまい、住むことができなくなっている。